

モ・デ・ル・農・家

玉名郡天水村

一大轟音！泥の流れ、岩

宅金融公庫の融資をうけ、県で建てた農

して頂きたい。

出資して、昨年の十一月に完成した。平

津浪の巨大な爪跡が過ぎて……そして生きのびた人々が我に返つた時には、こゝ天水村小天本村部落はすつかり様相を変えていた。天水村長の言をかりれば「有史以来の災害」に見舞われたのであるが、この爪跡の中に奇蹟的に残つた一軒の家、これが三十一年度に住

二十二坪の家である。（写真）部分的に
は被害はうけているが、屋根はそのまま
、そして家の西北部は全く無傷であつ
た。柱は二本程折れていたが、これも岩
石さえこなかつたならば、恐らく折れる
こともなかつたろう。ここで建築の構造
が強く、世人の関心をひいたのであつ
た。この家が山津浪で残つた重な点を要
約すると次の理由によるものと思われ
る。

最後にこの外で大住宅を調査に来られた玉名消防団の団員の言葉を伝えて筆をおこう。

常の農事にモロは、一たん台風となると、災害の連絡情報に切りかえられる。直ちに、放送室を有つ農協に災害対策本部が設けられ、平川農協長の機にのぞんだ指揮命令の一つ一つが、地区内十四ヶ所にかけられたスピーカーを通して、全域にふたえられるのだ。



リードする熊本弁

—中卒求人開拓日記から—

る。勤労課長の案内で現場を巡視する。
熊本県出身者は二五〇名余り在籍しており、産児島県に次いで多い。昨春就職してから僅か十ヶ月足らず、姿勢も仕事振りも見違えるような成人ぶりである。
中にはまだ顔をおぼえていてえしやくする人もいる。就業時間が終つてから、工場の大広間で熊本県出身者を集めて懇談会を開く。時たま熊本弁が飛出してみんなを笑わせる。懇談会終了後テレビを見れる。

山に咲まれており赤土の山肌、緑、黄色の松木、一寸天草島を思わせるところだ。人口わずか五万の市であるが、その市場の中に大小の陶器工場が千軒あまりあつて、食器類やアメリカ向けの玩具陶器が盛んに製造されている。陶器を俗にセトモノと呼ばれるのも瀬戸の地名から出たものである。

昨年三月本県から初めて三五〇名の者が就職した。今日は熊本出身の代表者を各工場から一名あて出席してもらい座談会を開く。悲しかつたこと、楽しかつたこと、現在の生活や仕事に対する感想、工場に対する不満や希望などを聞いたがほとんど満足している様子である。

(注・本年三月には当地へ六五〇名就職している)

★大阪府(泉州地方) 開拓第一百

京都駅から十五分山科の〇〇工場を訪問する。この工場には熊本県の各地から就職している。従業員五〇〇人のうち四五〇名が熊本出身者である。京都の中心にありながら、ここでは「熊本弁」が大

★ 大阪駅にて 関心をもつて撮
り。 県人の各層の人々
ら工場誘致へと雇用について依頼す

就職日記

地区別	熊本県内		就職
	男	女	
その他	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
北九州	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
京阪神	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
中京	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
関東	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
県外	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
熊本県内	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元
昭和三二・三新規中卒	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元	一、二〇〇 元

本県は元来農業県のためか、中学卒業者は、四、五年家事手伝いの後就職するという傾向が強かつた。しかし二、三年前から卒業後すぐ就職する者が激増し、中でも県外への就職者が目立つている。県職業安定課の統計をみると、昭和二十九年度卒業者で中京、京阪神、北九州地区へ就職した者は八五〇名、昭和三十年度一、九九六名、昭和三十一年度四、九九六名と年々著しい増加をみている。これは本人は勿論父兄の職業に対する意識の向上、農業経営の合理化に伴う二、三男対策への自覚等々もあるようが、県職業安定課職員(大阪駐在員)による職場開拓の効果も大きく考えられる。県ではこれら年少者の職業問題の重要性にかんがみ、昭和二十九年度から、中京、京阪神地区へ駐在員を送り、強力な求人開拓活動をつづけているので、これが活動状況を駐在員の手記からのぞいてみよう。

立てるものの、又は土台はあつても
土台と基礎が緊結してないものが多い。
又必要以上の太い梁を使つて、柱が梁の割に細く、全体としては外力に脆いものが多い。これらは一たまりもなく流れ去り、崩れ去つてしまつたのである。家を建てる時は、形や意匠も勿論必要であるが、構造を考慮したデザインの美を必要とする。

今後家を新築される方々のため
に、特にこの事実を伝えて参考とし

非常事態の発生——それ、消防団の召集だ、避難準備だ、機動力の結果だ——しかし、これを速かに周知徹底する方法が必要であつた。満潮時は、常に夜半なのである。

／＼有線放送がほしい／＼村民の声は、直ぐさま農協や漁協にとどけられた。たまたま、岱明村が三十一年度「新農山漁村建設計画」の指定村となるに及んで、高道の農協、漁協では、早速部落の人たちの念願をいれて、補助金四十七万円をもらい、百五十万円の有線放送施設を共同

筑くカマスマの運搬、避難準備命令等は、きわめて迅速果敢に行われている。それというのも、消防団員の現場（海岸堤防）における適確な状況判断が、そこから一矢をへだてた農協へ、有線放送をもつて逐一報告されるためで、対策本部ではすぐ手配ができるからである。

このように、農、漁協を中心とした村民一体の協力が、何時どのような非常事態に遇おうとも、機敏に対処できるところに、有線放送の役割の大ささを痛感するのである。（広報涉外課）

送·放·線·有
村明岱郡名玉

七部落があり、七百戸、四千二百人の人々が、のりをなして副業に田畠四百町歩をなしつけており、いざ台風もなれば、海岸堤防をすさまじいやしている。すでに、此処は、台風の常襲地帯となつてゐる。

団員三百名の召集が行われ、地区内で唯一の機動力を有する二十七輪のオート三輪車が各戸から飛び出して農協に勢ぞろいをした。そして、救援苗を積んで目的地に向うという、めざましい活躍ぶりであったのだ。